

回想・第58回徳島駅伝

懸命の走り ゴールに運んだ

たすきという名の絆

流れる汗、高鳴る鼓動、そして広がる笑顔。その一こま一こまにドラマがあり、感動が生まれる――。

新春の阿波路を駆け抜ける第58回徳島駅伝が、1月4日から3日間、43区間257・3キロで開催され、16郡市による熱いたすきリレーが繰り広げられた。郷土の誇りをかけ、懸命の走りですすきをつないだ阿南市チームの3日間を追った。

選手が、軽快に飛ばして1位と秒差の2位でたすきを渡すと、島田選手が初出場とは思えない堂々たる走り、トップ争いを演じた。「入りはピッチ走法、追いつけば大きなストライドで」。最終走者の岩浅選手は冷静に前を追う。監察車から聞こえる監督の声が力になったと、かちどき橋の手前で一気に抜き去ると、大観衆が待つゴールに飛び込んだ。「初めての経験で感動しました」と、初の区間賞に満面の笑みを浮かべた。

2日目は徳島市から三好市までの阿北コース。地元を走る後続チームがエース級のランナーを投入するなど、苦しい展開となったが、この日も中学生が気を吐く。「駅伝の雰囲気にも慣れ、気持ちよく走れました」。出場2回目の西條選手(福井中3年)が区間1位の走り、勢いをつけると、初出場の川口選手(羽ノ浦中1年)が、力強いストライドで最終区間の上り坂コースを制した。家族に迎えられ満足感に浸りながらも、「明日は新人賞をとりたく」と気持ちを引き締めていた。2日間の競技を終えて阿南市は5位。

「ベストメンバーで巻き返しを図る。」と林監督は、スタートに備え入念にウォーミングアップする山崎(幸)選手の肩をポンとたたいて「食らいついていけ」と檄を飛ばした。山崎兄弟によるたすきリレーで始まった最終日は、一路、徳島市内をめざす北方コース。第2スプリットで再スタートを切った稲岡選手が、「前日の悔しさをぶつけました。」と区間1位の力走で流れをつくと、続く吉成選手(阿南中3年)も初出場ながら自慢の健脚で順位を維持した。「まさか一番で来るとは」。最長区間(14・4キロ)を任せられた森選手は、若手の活躍に奮起一番、けいれんしかけた足をかばいながらも、懸命の走りで上位チームとのタイム差を縮めた。

望みをつなく、延べ42人の思いを一身に受け、ゴールをめざした主将の武谷選手。「何が起きるか分からないのが駅伝。最後まであきらめずに走った。」と、すべての力を振り絞りゴールテープを切った。

重圧から解き放たれた選手たちの表情は晴れやかだった。選手とともにゴールした喜びを分かち合った林監督は、「結果は6位と一歩及ばなかったが、中学生と女子選手がよく頑張ってくれた。女子総合優勝、中学生総合優勝を取れたことは来年につながる。」と、充実感をコメントに乗せ、選手の健闘を称えた。

同じ地域に住むさまざまな年代の選手が、1本のたすきをつなぐことで、深い絆が生まれる。徳島駅伝は、目に見えない大切なものを私たちに教えてくれた。伝統とチームの絆にふれた3日間。数々のドラマと感動を残した選手たちの勇姿を目に焼き付け、今年、目標を達成できなかった悔しさと経験をばねに、阿南市チームのさらなる飛躍を心から祈りたい。

価値ある 6位入賞!



受賞!おめでとうございます

- 第16区区間賞 岩浅葉月さん
- 優秀競技者賞 折野加奈さん
- 第41区区間賞 川口優香さん
- 新人賞 第32区区間賞 西條功一さん
- 優秀競技者賞 第27区区間賞 稲岡哲平さん
- 第36区区間賞

徳島駅伝スタートライン

